

傍^{そば}に行かせて下さい

村上法子

鳥取県・一七・高校生

もうずっと言葉を交わしていませんね。私があなたに想いを伝えたのがいけなかったんですか。だけどあの頃の私は、あなたに私の気持ちを知ってもらおうと必死だったんです。後悔なんてしなくなかったから。私からの突然の電話驚いた？ 私も自分のパワーに驚いた。式を挙げてしまう前に、という焦りもあったのかもしれない。だけどかける前はあんなにドキドキしてたのに、あなたの声が聞こえたら意外と何でもないことだった。伝えるだけで終わることを知っている、自分を諦めさせるための電話だったからかなあ。でも、あなたの「ありがとう」の言葉の向こうには、新しい生活のにおいがしたから悔しかった。私の方が先にあなたと出会っているのに、ずっとずっと愛してるのに、どうして、これからあなたがすべてを共にする相手が私じゃないのか……あなたと二人だけの生活を夢見ていたから、あなたは特別私にだけやさしいと感じてたから、現実の恋に電話を切った後、初めて泣いた。式の当日は母の声なし

では起きることのない私が起きてた。ラジオをつけたら皮肉にも内容は結婚話だった。六月だったからね。そしてあなたは新婚旅行に行ってしまった。顔を合わせたくなかったけど会いたかった。まわりがあなたのことばかり話すから本当に辛かったのを覚えてる。だけど、今はもっと辛い。どうして、わざと避けたり冷たくするんですか。私頑張ってるから、あなたを早く忘れることができるように努力してるから、ずっと前みたいに普通にして下さい。旅行から帰って来て、私に微笑んでくれたのに、一度きりで終わってしまった。なんで？ 話がしたいよ、聞いて欲しいこといっぱいあるの。絶対に、先生であるあなたにも、奥さんにも迷惑かけないから、ただ聞いてくれるだけいい。傍に行かせて下さい。

もう少しで私は卒業します。本当ならそれから想いを伝える予定でした。このままで卒業したくない。一緒に思い出が作りたいです。

*この手紙、本当は先生に直接送りたいです。けど、読んでさえもくれないと思うので、こちらに送りました。